

2014.02.21 Report 大場 1/9

■ 2014 MAISON & OBJET - REPORT

■ 見本市の概要

- 会場面積: 130,000 m² (9つのホール)
- 来場者数: 観覧者数 83,282人
買入者数 40,000名
フランス産品買入者 9%
- 出展企業数: 約 3,000社

■ FLOOR PLAN

■ POINT

- 2014年度のクリエイター: TOM DIXON (2014クリエイター)
- PHILIPPE NIGRO (インテリア・ナウ) / 展示会 M&O内
- DOMON SUZUKI (インテリア・ナウ)

パリの市街で Deco Off は、再展に引き続き開催。2014.1.23-27 / 5日間・78社

- インテリアレーション・エリア H6H7に新設 (昨年9月展より)
- スタジオ・ワーク+デザインの登場 H6H7に新設 (キッチン関連商品の展示)
- 今後の新しい動き
- 2014.8.10-13 / 4日間 シンガポールにてメゾン・エ・オブジェ・アジアを開催予定
- 2015.5.12-15 / 4日間 マイアミビーチにてメゾン・エ・オブジェ・アメリカを開催予定

2014.2.21 Report 大場 4/9

■ 2014 MAISON & OBJET - 傾向その1 - COLOR

■ 今年、新しく見えて来たカラーは、ゴールド&イエロー系と書えると思う。光沢のあるゴールド、高彩度のイエローがスライスの割いたアクセントになっている。ダレー系は昨年引き続き多く、今年はアイボリーからベージュ系も色めだぬしいコーディネートが新鮮に映る。ブルー系は今年も増えており、ウルトラマリン系の強いカラーが印象的。昨年多かったターコイズブルーは、淡めのトーンが増えており、大きな面積のアイテムは使用されているケースが目立った。

■ コーヒー色の広がり

■ グレーページのコーディネートカラー

■ スパイスイエロー

■ ブルー系のバリエーション

2014.2.21 Report 大場 5/9

■ 2014 MAISON & OBJET - 傾向その2 - QUALITY

■ 昨年登場した、折り紙手法に進化を見る事が出来た。より繊細になったり、カラーの使い方に新しい理家がある。また、手織り感のある織物にも広がりを感じる。特に清潔感のあるカラーを使用した製品が、北欧圏の会社から多く提案されている。クオリティー全体としては、テクノロジーを駆使したり、高い技術を使った物が益々多く登場している。全体的にモダンな傾向が強いと感じた。

■ テクノロジー

■ ざっくり感のある織物

■ 刺繍テクニクの広がり

■ メタリックアクセント

■ ナチュラルマテリアル

■ 複雑なキルト刺し子

2014.2.21 Report 大場 6/9

■ 2014 MAISON & OBJET - 傾向その3 - PATTERN

■ パターンに関しては昨年登場した鳥を始めとし、動物・蝶(昆虫)特に魚や海の生物モチーフがとて多くなっている。デジタルプリント技術の向上により、縞のバリエーションが益々広がっている。また、正反対の表裏と言えぬ様な、ハンドプリントタッチが多くなっている所が面白い。従来の物に4色の加工をプラスした凹凸プリントや、自然の地平線からイメージするボーダーのライン、ホライズンストライプなど新しい傾向も見受けられた。

■ 動物・鳥・魚・蝶

■ デジタルプリントの進化

■ ハンドプリントタッチ

■ 新しい凹凸プリント

■ ヒコウの表現

■ ホライズンストライプ